

## 九州北部地方（山口県を含む）の 6月の月平均気温が統計開始以降、最高となりました

- 6月の九州北部地方（山口県を含む）の地域平均気温は、統計開始以降、最も高くなりました。
- 九州北部地方（山口県を含む）の福岡や佐賀などの多くの地点において6月の月平均気温が統計開始以降、最も高くなりました。

九州北部地方（山口県を含む）では、6月は暖かい空気が入りやすかったことから、気温は高く経過しました。

1. 6月の九州北部地方（山口県を含む）の地域平均気温平年差<sup>※</sup>は、統計開始（1946年）以降、最も高くなりました。

	2020年 平年差（℃）	これまでの1位 2005年 平年差（℃）	これまでの2位 2004年 平年差（℃）
6月	かなり高い（+1.5）	かなり高い（+1.4）	かなり高い（+1.1）

地域平均気温平年差の経過等は、別紙1を参照してください。

2. 統計期間の長い17地点のうち、福岡や佐賀など10地点（タイ記録2地点を含む）では、6月の月平均気温が統計開始以降、最も高くなりました。（別紙2参照）
3. 記録的高温となった要因は、暖かい空気が入りやすかったことや、上旬を中心に晴れた日が多く、強い日射の影響を受けたためとみられます。  
また、背景として地球温暖化の影響も考えられます。（別紙3参照）

※ 地域平均気温平年差は、いつもの年（平年値：1981～2010年の平均）と比べてどのくらい暑い・寒いかを地域全体でみるもので、統計期間の長い観測所を対象としています。九州北部地方（山口県を含む）では、雲仙岳を除く16地点における気温の平年差を平均して算出しています。

問合せ先：福岡管区気象台気象防災部  
地球環境・海洋課 担当：川口  
防災調査課：蛇嶋  
電話 092-725-3613 FAX 092-761-1726

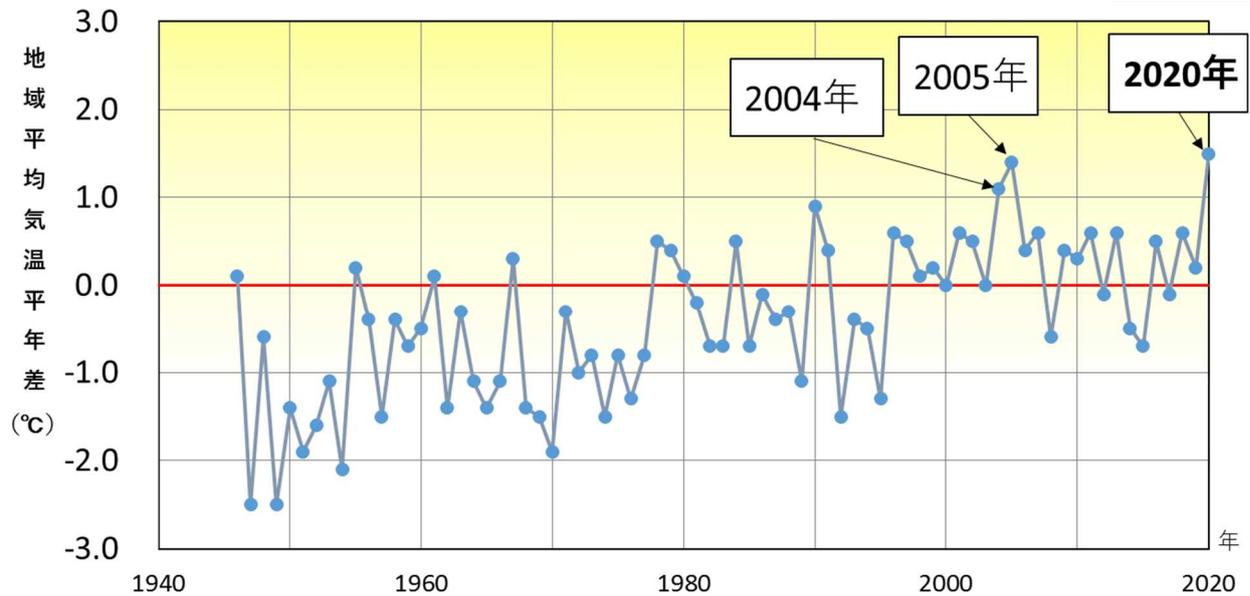


図 1 九州北部地方（山口県を含む）の 6 月の地域平均気温平年差\*の経年変化  
（統計期間：1946 年～2020 年）

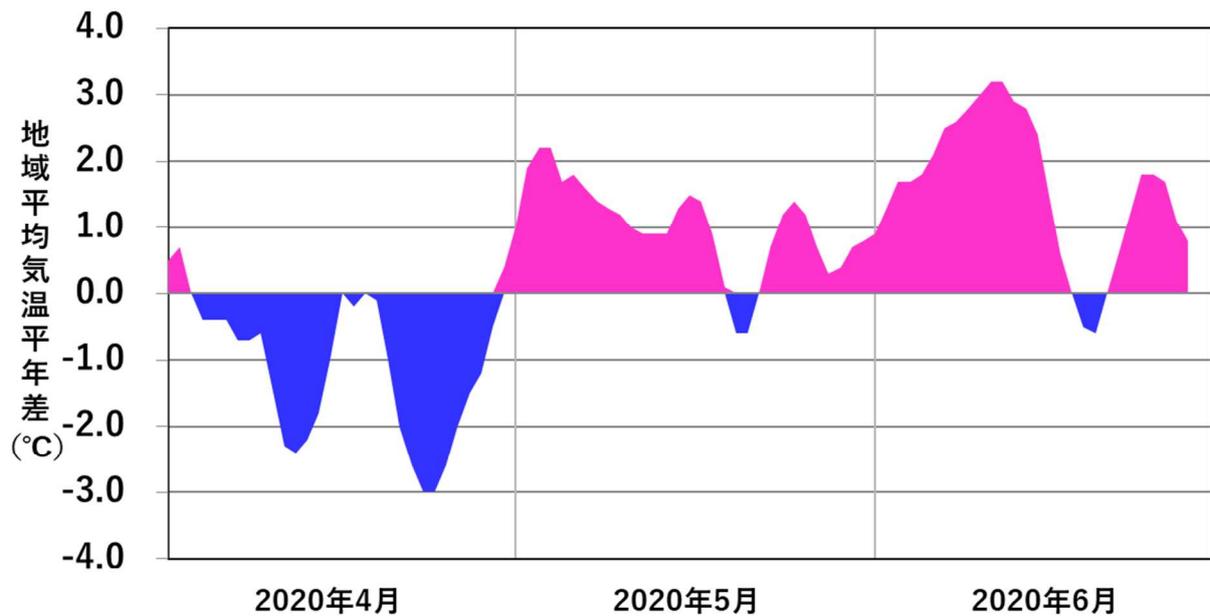


図 2 九州北部地方（山口県を含む）の地域平均気温平年差\*の時系列図（5日移動平均値）  
（2020 年 4 月～6 月）

※地域平均気温平年差は、いつもの年（平年値：1981～2010 年の平均）と比べてどのくらい暑い・寒いかを地域全体でみるもので、統計期間の長い観測所を対象としています。九州北部地方（山口県を含む）では、雲仙岳を除く 16 地点における気温の平年差を平均して算出しています。

表 九州北部地方（山口県を含む）の2020年6月の平均気温

地点名	平均気温 (°C)	平年値※ (°C)	平年差 (°C)	これまでの1位 (°C (年))	月平均気温の 高い方からの 順位	統計開始年
山口	23.9	22.4	1.5	24.1 (2005)	2位	1966
下関	23.5	22.3	1.2	24.0 (2005)	2位	1883
萩	23.2	21.5	1.7	23.1 (2005)	1位	1948
福岡	24.9	23.0	1.9	24.8 (2005)	1位	1890
飯塚	24.2	22.4	1.8	24.1 (2005)	1位	1936
佐賀	25.3	23.3	2.0	25.1 (2005)	1位	1891
長崎	24.1	22.8	1.3	24.6 (1894)	3位タイ	1879
巖原	22.6	21.1	1.5	22.5 (2005)	1位	1887
平戸	22.4	21.0	1.4	22.1 (2004)	1位	1940
佐世保	24.2	22.8	1.4	24.2 (2004)	1位タイ	1947
雲仙岳	20.4	19.1	1.3	20.4 (2004)	1位タイ	1924
福江	23.4	22.0	1.4	23.0 (2004)	1位	1962
熊本	24.9	23.6	1.3	25.5 (2005)	3位タイ	1890
人吉	23.5	22.3	1.2	23.6 (2004)	2位タイ	1943
牛深	24.3	23.1	1.2	24.6 (2004)	2位	1950
大分	24.0	22.4	1.6	24.4 (2005)	2位	1887
日田	24.9	22.8	2.1	24.7 (2005)	1位	1943

※ 気象台などの統計期間の長い17地点の観測所を対象としています。

※ 平年値は1981年から2010年の平均です。

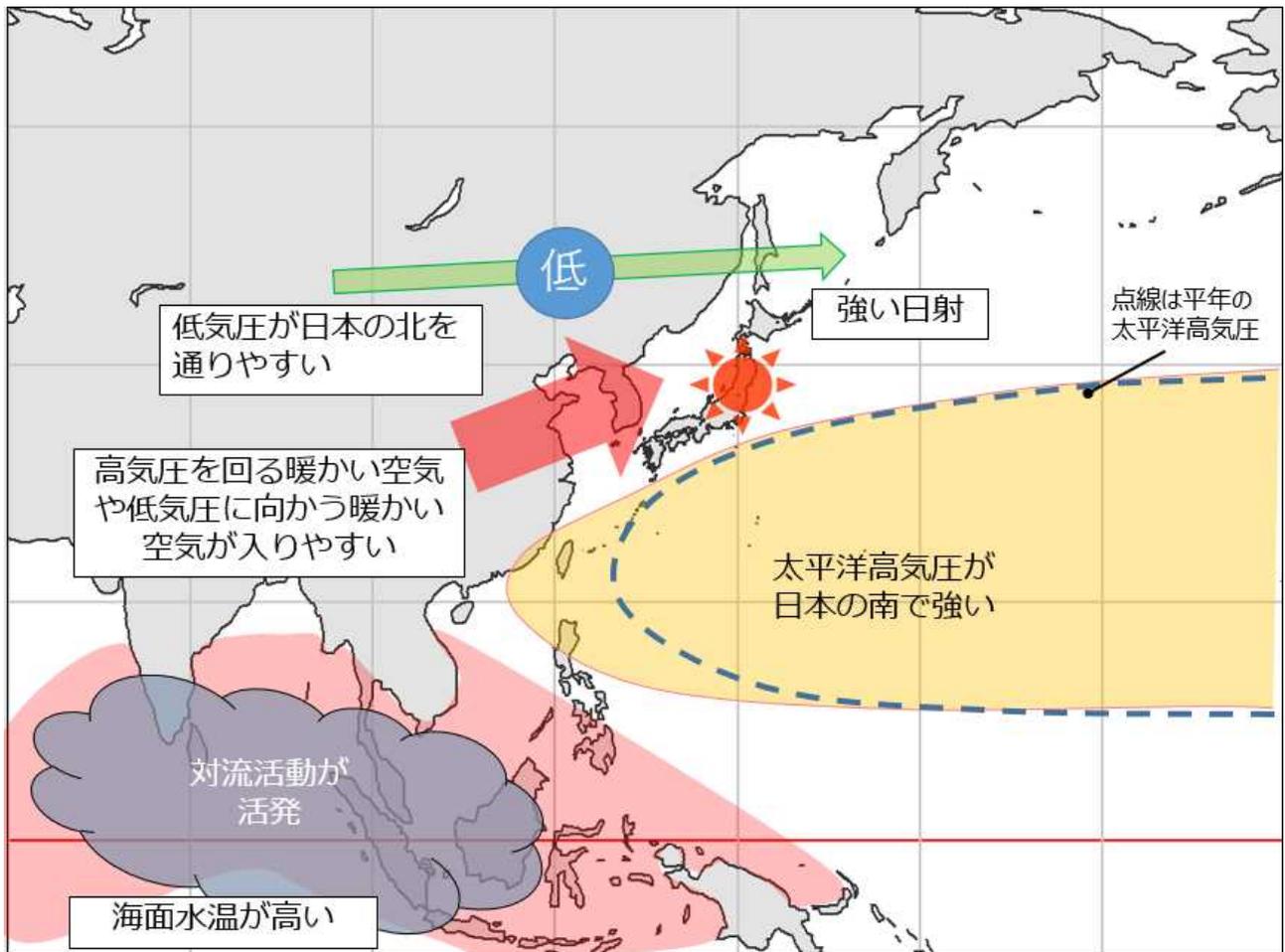


図3 2020年6月の平均的な大気の流れの模式図

- 日本の南海上で太平洋高気圧が強く、西へ張り出しました。一方、バイカル湖の南から日本の北を低気圧が通りやすくなりました。これらの高気圧周辺を回る暖かい空気や日本の北を通過した低気圧に向かう暖かい空気が日本付近に入りやすかったことから、気温が高くなりました。
- 太平洋高気圧の強まりには、インド洋からインドネシア付近での海面水温が高いことによる活発な対流活動が影響しているとみられます。
- また、北日本から西日本では上旬中心に暖かい高気圧に覆われる時期があり、晴れて強い日射の影響も加わったとみられます。
- 全球的に大気全体の温度が高い状態が続いており、背景として地球温暖化の影響が考えられます。